

郷土摂津

第66号

平成15年10月1日

いにしえ通信

発行 摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課
〒566 - 8555 摂津市三島一丁目1 - 1

(06)6383 - 1111 (072)638 - 0007

ホームページアドレス <http://www.city.settsu.osaka.jp/>

回転脱穀機 足踏みミシンのように踏み板をふむと回転ドラムが回ります。稲束をさしかけると、針金の列が籾粒をはたき落とす仕組みになっています。



千歯扱き 歯を3ブロックに分け、前後から取り付けた特許品。この形で売買されて、脚は自分の家で取り付けました。

農具 春夏秋冬 第7回

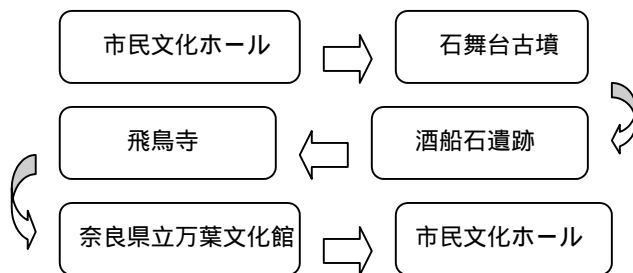
から見た 秋冬

回転脱穀機・千歯扱き

鎌で刈られた稲は、稲木とかダテと呼ばれた木組みに掛けて干しました。干し終わった稲束からもみ粒をはがす作業を脱穀といいいます。弥生時代は、穂のまま木の臼に入れて、豎杵(たてぎぬ)でついて脱穀していたようです。江戸時代の元禄期に千歯扱(こ)きが発明されました。回転脱穀機は明治18年頃から開発が始まり大正時代に完成します。はじめは千歯扱きを回転させるアイデアからスタートし写真の逆U字形針金式になりました。

バスツアー

悠久の歴史とロマンが息づく飛鳥路の旅



日本最古の和歌集「万葉」のふるさとへ

と き 平成15年11月8日(土)

出発時間 午前8時30分

集合場所 摂津市民文化ホール前

解散時間 午後5時予定

参加費 5000円(昼食代・入館料等)

定員 40名

主催 摂津市文化財愛護会

後援 摂津市教育委員会

申し込み 会長橋本氏まで電話で

06(6381)1560

雨天決行(ただし、気象に関する注意報・警報が発令された時は延期)

10月のふるさと摂津講座 石山合戦と摂津

と き 10月15日(水)午後2時~4時

と ころ 総合福祉会館・第1会議室

講 師 久保高広氏・田中猛氏

講師はいずれもふるさと摂津案内人
講座は申し込み不要です。当日直接会場へ

石碑・顕彰札の紹介

摂津市域の歴史をたずねて

菅原道真ゆかりの三本松天神社跡

【所在地】 摂津市鳥飼西一丁目 14 番地先

【設置年度】 平成 7 年度改修

延喜元年（901）正月、九州の大宰府に左遷された菅原道真が赴任の途中、鳥養の地に船を着け食事の後自ら楊枝松を植え、この木が生育することを願って神社を建立したと伝えられています。「摂津名所図絵」には「管公筑紫御下向の時ここに船をよせ玉ひし旧跡なり。この村に下り松、義経松、踊り松とてあり」と記されています。この3本の松から、神社の名が起こったとされています。

明治 36 年の淀川堤防改修工事で境内が削り取られ、鳥居だけを残すのみとなりましたが、それも昭和 58 年 10 月に一部補修し、別府 1 丁目の中真（ちゅうしん）神社に、移転されました。



中真神社の鳥居



第30回 埋もれた摂津市の歴史

摂津市から須恵器が出土（2）

提瓶(ていへい)

旧味舌村釜塚井（現在の千里丘 4 丁目）から出土した須恵器。現在は橋本勝治氏所蔵。焼成が不十分で軟質な仕上がりになっています



古墳時代になると、須恵器（すえき）と呼ばれる土器が作られるようになります。縄文土器や弥生土器は野焼きの軟質の土器でした。これに対して、須恵器は窖窯を使い高温で焼いた硬質の土器です。大陸から入ってきた当時の最新の技術でした。この須恵器が、豊中市の桜井谷、吹田市の片山、小路、佐井寺を中心とした千里丘陵の縁辺部で生産されていました。これらの窯跡は千里古窯跡群と呼ばれています。堺市の泉北丘陵を中心とした陶邑（すえむら）古窯跡群と並び、当時わが国有数の窯業地帯でした。（つづく）